



介護事業所のお話 グループホームあんずの家

グループホームあんずの家のホーム長である田島利子さんにお話を伺いました。

【グループホームあんずの家について】

あんずの家は、追浜地区にある認知症と診断された方々が暮らす入所施設です。認知症になっても、自分らしく生活していただくために、「待つ介護」と「奪わない介護」というスローガンを掲げ、お一人おひとりの時の流れ、生活を大切にサポートさせていただいています。過剰な介護、過干渉を避け、出来ること、得意とすることを続けていただき、ストレスを減らす環境を提供しています。

【コロナ禍での工夫】

*気をつけていること：事業所の特性上、入居者の方にはマスク着用がままならない状況です。基本の感染予防策を徹底し今も感染予防の為に神経をすり減らし業務についています。

*困ったこと：一時期のマスク・アルコール・グローブが不足には、本当に困りました。

*サービス内容の変化：当たり前に行われてきた外出、交流その全てにストップが掛かり、日常が大きく変化しました。どうすれば「繋がり続けること」が出来るのか、早々にオンラインでの面会や屋外での面会等を実施して、交流の機会を持つようにしました。入居者さんは月2回のオンラインカフェに参加し、いろいろな方との交流を楽しんでいます。

*利用者の変化：外出や交流の機会が奪われてしまい、どうしても運動量が減ってしまいました。体力や筋力の低下は否めません。ただ新たな認知症由来の症状や行動がみられる方はいらっしゃいません。きっと「繋がり」が保たれているからであろうと思います。オンラインでも、笑ったりおしゃべりしたりする環境があることが大切なのだと思います。

【地域の人へのメッセージ】

町内会の行事など、いつも快く受け入れてくださりありがとうございます。「認知症に対するイメージが変わった」とよく言われます。認知症になっても周囲の方の関り方で、穏やかな日常生活が送れることを、地域の皆さんが一緒になって証明してくださっているのだと思います。これからも、ともに、「認知症になっても暮らしやすいまち」を、創っていけたら嬉しいです！！

問い合わせ先:健康長寿課 介護予防係 (046-822-8135)

<あんずの家での利用者の様子>



<オンラインでの面会の様子>

